



NCC 日本キリスト教協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-24 振替 00180-4-75788
TEL : 03-6302-1919 FAX : 03-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

NATIONAL CHRISTIAN COUNCIL IN JAPAN

JAPAN CHRISTIAN CENTER 24, 2-3-18 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0051 JAPAN
Phone : 81-3-6302-1919 Fax : 81-3-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

総会議長
吉高 叶
総幹事
金性済

Rev. Kano YOSHITAKA
Moderator
Rev. Dr. Sungjae KIM
General Secretary

内閣総理大臣 菅義偉 様

日本の原子力行政はもはや破綻しています

「彼らは、おとめなるわが民の破滅を手軽に治療して、平和がないのに『平和、平和』と言う。」

旧約聖書 エレミヤ書 8 章 11 節

聖書の言葉は現代日本に向かって、このように警告しているように聞こえます。「かつて、広島と長崎において破滅的な原爆投下による貴いいのちの犠牲と被害を受け、さらに東京電力(以下、東電)福島第一原発事故によって未曾有の人の災をもたらしておきながら、なおこの国は安全でもないものを『安全、安全』と言う」と。

昨年 10 月、50 か国によって批准され、本年 1 月 22 日に発効することになった核兵器禁止条約に対して、多くの国民の願いと世界の市民の期待を裏切るように、日本政府は現在に至るも批准を拒み続けていることは、果たしてこの国の後代の人々が誇らしい歴史として記憶し、また世界の人々に語れることなのでしょうか。

アメリカの核武装の傘の下にあってこそ日本がこれまで平和であった、という論理は全く虚構であります。戦後、日本が少なくとも直接戦争に巻き込まれず、「平和」であったのは、戦争と戦力の永久放棄を謳う日本国憲法 9 条によってであったのであり、むしろアメリカの核武装の傘こそ、米ソ冷戦体制下においても、またその後今日までも日本を核戦争の脅威に潜在的にさらしてきたことが真実なのであります。

この 3 月に、わたしたちは、東日本大震災と東電福島第一原発事故 10 周年を迎えました。しかしながら、去る 3 月 18 日以来の報道によって、日本に暮らすわたしたちを震撼させ、世界を驚かせる東電柏崎刈羽原発における、耳を疑う杜撰な管理の実態が暴露されました。不審者侵入検知の設備故障をはじめとする 16 か所もの設備故障の一年にも及ぶ長期放置、中央制御室立ち入り ID のなりすまし不正使用というモラル崩壊、そして 4 件もの安全対策工事終了の虚偽報告などが、原子力規制委員会の抜き打ち検査によって明らかとなったのです。つまり、この度の柏崎刈羽原発での出来事は、東京電力の核管理のセキュリティ体制が崩壊状態にあることをさらけ出すこととなったのです。

これまで原発をはじめ日本の原子力行政に反対してきた私たちは、日本政府と東京電力が福島原発事故の歴史的教訓から真実を学ぶことがなかったばかりでなく、今や日本国民を一触即発の危機にさらすような原子力行政のモラルとセキュリティの崩壊の事実を目の当たりにする思いを禁じえず、また日本全国に散らばる原発においてもどのように危険な管理の現実が隠蔽されているのかという疑念に恐れおののくほかありません。

以上の理由により、わたしたちは、日本政府が一刻も早く、原発運転の中止と原子力行政を抜本的に見直し、原子力エネルギー政策の放棄を決断していくことを、ここに断固として訴える次第であります。

2021 年 3 月 25 日

日本キリスト教協議会
総幹事 金性済

平和・核問題委員会委員長 内藤新吾